◎ウルソ錠，○ウルソデオキシコール酸錠　［内］

【重要度】　【一般製剤名】ウルソデオキシコール酸（U）　Ursodeoxycholic Acid　【分類】肝･胆･消化機能改善剤

【単位】◎50mg・◎100mg/錠

【常用量】■利胆・肝機能の改善：150mg/日■外殻石灰化を認めないコレステロール系胆石の溶解，PBC：600mg/日［最大 900mg］■C 型慢性肝炎における肝機能改善：600mg/日［最大 900mg］

【用法】1 日 3 回

【透析患者への投与方法】減量の必要なし（5）

【保存期 CKD 患者への投与方法】減量の必要なし（5）

【特徴】肝胆汁流量及びビリルビン排泄量増加（利胆作用）、肝血流量増加、脂肪吸収促進、胆汁のコレステロール不飽和化作用、液晶形成作用（コレステロール胆石溶解作用）がある。難治性の胆汁うっ滞症にも有用。ケノデオキシコール酸に比し、下痢の発症が少ない。

【主な副作用･毒性】下痢、悪心、嘔吐、腹痛、便秘、胸やけ、胃部不快感、過敏症、全身倦怠感、めまい、間質性肺炎、紅斑、ビリルビン上昇、γ-GT 上昇など

【モニターすべき項目】肝機能、cholecystgram、エコー

【吸収】90%が小腸から吸収される（U）吸収はケノデオキシコール酸に比し、完全ではない（Clin Pharmacokinet 30: 333-358,1996）溶解性が低いため、吸収は遅く、不完全（Ital J Gastroenterol 27: 193-195,1995）

【tmax】1～3hr（U）

【代謝】肝で初回通過効果を受ける。体外的に投与されたウルソジオール（ウルソデスオキシコール酸）は肝でタウリン抱合、グリシン抱合体になり、抱合体は胆汁に分泌され、内因性胆汁酸とともに腸肝循環する（U）

【排泄】主に糞便中排泄，ごく少量が尿中に排泄される（U）腸内細菌により lithocholic acid になり主に糞便中に排泄される．大部分の胆汁酸が腸肝循環しているため血中濃度は低いが，重篤な胆汁鬱滞があると腎クリアランスが顕著になる（Clin Pharmacokinet 30: 333-58, 1996）

【t1/2】100hr（10）

【蛋白結合率】 54%（1）高い（U）

【Vd】大部分の胆汁酸が腸肝循環しているため、血中濃度は低く、Vd は大きい。肝疾患では血中胆汁酸濃度が上昇するため Vd は低下する（Clin Pharmacokinet 30: 333-358,1996）

【MW】392.57

【透析性】蛋白結合率が高く，Vd が大きいため効率的には除去されないと思われる（5）資料なし（1）

【O/W 係数】LogP=0.4［1－オクタノール/水系，pH7］（1）【pKa】4.63

【相互作用】コレスチミドにより吸着され効果減弱のおそれあり，投与間隔を空ける（1）MDR1 と CYP3A4 を軽度誘導してジゴキシンの吸収をわずかに低下させる可能性（Becquemont L, et al: Clin Pharmacol Ther 79: 449-60, 2006）

【備考】脂溶性ビタミンの吸収を改善するとされ、活性型ビタミン D3 製剤の吸収障害の疑われる HD 症例に有効という報告あり（透析会誌 28:1519-1523,1995）

【更新日】20240530

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。